



常磐線小高駅



昨年7月に避難解除になったはずの小高駅前通りには人影が全く見られない

常磐線坂元駅の周辺

常磐線が開通した。新駅は国道6号線に近く、坂元中学校は目の前に位置している。駅の北側には新しい住宅街ができていたが、南側(海側)には何もなかったのが対照的である。中浜小学校まで歩いてみようと思ってみたのであるが…。



坂元駅のプラットフォーム上から見える坂元中学校



高架橋上の坂元駅



坂元駅北側の光景



坂元中学校



坂元駅南側の光景



坂元駅で下車してから次の電車まで丁度1時間。中浜小学校まで往復できると簡単に考えて出発したものの、目に見えている小学校に一向に行き着かない。これまで、なぜ坂元中学校への全学津波避難を考えなかったのかと疑問に思っていたが、やはり学校内待機を選択された当時の校長先生のご判断は正しかったのであらうと思直した。

常磐線山下駅の周辺

坂元駅周辺との比較で云えば，新駅から南側にも集落が残っている。旧山下駅に近づくに従って，津波の痕跡もはっきりしてくる。旧山下駅前の広場には，津波災害慰霊のための大きな空間ができていた。



山下駅北側の新築住宅地



津波到達標識

新山下駅から急山下駅へ向かう途中の住宅と津波高さの変化



津波の痕跡



旧山下駅前の商店



旧山下駅に残されたプラットフォームの痕跡



山元町東日本大震災慰霊碑

平成二十三年(西暦二〇一一年)三月十一日午後二時四十六分、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード九・〇の大地震が発生し、震度六強の激震を観測、一時間ほどで巨大津波が町に襲い掛かり、住民の平穏な暮らしを奪っていった。津波浸水高は最大で十三メートルを超え、海岸から三・五キロメートルの内陸にまで達し、浸水面積は約二十四平方キロメートル、町域の四割近くにも及んだ。防潮堤、防潮林、二つの小学校、常磐線と山下駅、坂元駅などが壊滅的な被害を受け、沿岸部の磯、中浜、新浜、笠野、花釜、牛橋の六つの行政区を中心に、二千二百棟を超える家屋が全壊流出した。

故郷の見慣れた風景、大切な思い出や暮らしを支えてきた生産基盤など、先祖から受け継がれてきた有形・無形の財産が、瞬時に奪い去られてしまった。

全国各地から駆け付けた自衛隊、緊急消防援助隊をはじめ、警察、消防関係者による懸命な救出・救援活動が行われたが、犠牲者は六百三十七名を数え、町は深い悲しみに包まれた。

私たちは、大震災で犠牲者となられた多くの方々の御霊に哀悼の誠を捧げるとともに、震災の記憶を風化させることなく教訓として後世に残し、厳しい試練の中で育まれた絆と人を思いやる心を大切に、町の復興と更なる発展を誓い、ここに慰霊碑を建立する。

山元町東日本大震災慰霊碑

平成二十三年(西暦二〇一一年)三月十一日午後二時四十六分、宮城県三陸沖を震源とするマグニチュード九・〇の大地震が発生し、震度六強の激震を観測、一時間ほどで巨大津波が町に襲い掛かり、住民の平穏な暮らしを奪っていった。津波浸水高は最大で十三メートルを超え、海岸から三・五キロメートルの内陸にまで達し、浸水面積は約二十四平方キロメートル、町域の四割近くにも及んだ。防潮堤、防潮林、二つの小学校、常磐線と山下駅、坂元駅などが壊滅的な被害を受け、沿岸部の磯、中浜、花釜、牛橋の六つの行政区を中心に、二千二百棟を超える家屋が全壊流出した。

故郷の見慣れた風景、大切な思い出や暮らしを支えてきた生産基盤など、先祖から受け継がれてきた有形・無形の財産が、瞬時に奪い去られてしまった。

全国各地から駆け付けた自衛隊、緊急消防援助隊をはじめ、警察、消防関係者による懸命な救出・救援活動が行われたが、犠牲者は六百三十七名を数え、町は深い悲しみに包まれた。

私たちは、大震災で犠牲者となられた多くの方々の御霊に哀悼の誠を捧げるとともに、震災の記憶を風化させることなく教訓として後世に残し、厳しい試練の中で育まれた絆と人を思いやる心を大切に、町の復興と更なる発展を誓い、ここに慰霊碑を建立する。



慰霊碑に刻印された津波災害犠牲者

仙台防災

未来フォーラム2017

— 経験を伝える・共有する・継承する —



クロージングセッション風景



2017. 3. 12. 仙台国際センター展示棟にて開催

宮教大で学ぶ 防災教育と学校安全

Disaster Risk Reduction and School Safety in Miyagi University of Education



私たち宮城教育大学は、東日本大震災の教訓を生かし、防災教育と学校安全管理に関わるさまざまな活動を進めてきました。学部授業では、1年次に全学生必修の「環境・防災教育」を新設するなどさまざまな科目でこの課題に取り組み、また、授業以外にも、教育復興支援センター（現「防災教育未来づくり総合研究センター」）による多くの事業を実施してきました。

災害時、学校は、子どものいのちを守ることはじまり、次々と重大な役割を担います。東日本大震災では、多くの学校がこうした役割を果たしました。例えば、巨大地震の襲来に対し、学校の教職員が子どもや地域住民を避難誘導し、多くのいのちを救いました。また、発震から数か月にわたり、被災地の小中学校のほとんどが避難所になり、何万人もの避難者の生活を支えました。このように、学校教員の日ごろの仕事は非常時にも力を発揮する内容を含んでおり、教員養成大学での学

びの多くが非常時にも生かされるのがわかります。

その一方、石巻市立大川小学校では、学校の避難誘導中に児童74名と教職員10名のいのちが奪われました。二度とこのような悲劇を繰り返さないよう、子どもと教員のいのちを守るためにどうすればよいのかを解明する必要があります。このような重い課題を、教育界全体が背負っているといえるのです。

宮城教育大学では、子どもをはじめとする多くの人のいのちを守るという営みが、学校種や教科を問わずすべての教員に必要な使命であると考えます。教育課程を改めて見直し、不十分であった部分を補うとともに、防災と学校安全に特に強みをもつ教員の養成をさらに充実させていきます。学生の皆さんにも、教育現場の課題にこたえることができるよう、このパンフレットを参考に、さまざまな機会を活用して意欲的に学んでほしいと願っています。

国立大学法人
宮城教育大学

宮城教育大学の展示ブースより

復興の意気や溢るる
Full of Kumamoto University Spirit

熊本大学

(五高寮歌より)

宮城教育大学の皆様へ
ご支援ありがとうございました♡



熊本大学 熊本大学学生有志一同